

モンゴル事務所ニュースレター 2019年7月号

トップニュース

【モンゴルで初めての障害に関する国際会議・第4回 CBID アジア大洋州会議が開催！田村所長、DPUB 千葉チーフアドバイザーも壇上へ！】



7月2日、3日、第四回 CBID（Community-Based Inclusive Development）アジア大洋州会議が行われました。CBIDは、障害者の経済的エンパワメントと持続的な社会開発を目指し、域内の知識と経験の共有を目的として行われる会議です。前回は2015年に日本で実施され、モンゴルへとバトンが渡された結果、モンゴルから400名、それ以外の国から200名が参加しました。

会議冒頭ではフレルスフ首相が挨拶し、またチンソリグ労働・社会保障省大臣がモンゴルの障害に関する取り組みを紹介しました。3日、「障害分野における国際・域内協力事例からの学び」をテーマとしたプレナリーセッションでは田村所長が登壇、JICAの取り組みを説明し、その後「ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト（DPUB）」の千葉チーフアドバイザーがプロジェクト紹介を行いました。その他行われた個別発表では、同じく DPUB の東田専門家が障害白書の取り組みを発表したことに加え、「障害児のための教育改善プロジェクト（START）」の石井チーフアドバイザーが障害児のための教育支援室の取り組みを発表しました。

プロジェクトの動き

新ウランバートル国際空港の事業権を日本企業4社が獲得。署名式典を実施。



7月5日に円借款で建設中の新ウランバートル国際空港の事業権契約の署名式典が行われ、モンゴル政府とともに、日本企業4社（三菱商事（株）、成田国際空港（株）、日本空港ビルデング（株）及び（株）JALUX）が出資・参画することとなりました。署名式では、フレルスフ首相、高岡大使によるスピーチや、ODAプレートの除幕式等が行われました。JICAは、空港建設、人材育成の両面で協力を継続し、早期開港を後押ししていきます。

「一次及び二次レベル医療従事者のための卒後研修強化プロジェクト」専門家が名誉賞を受賞



7月4日、技プロ「一次及び二次レベル医療従事者のための卒後研修強化PJ」の野崎専門家（業務調整）に対し、モンゴル保健医療分野に顕著な貢献をした外国人に贈られる「名誉賞」がビャンバスレン保健副大臣より授与されました。副大臣からはモンゴル初の総合診療研修開始など、この2年間で大きく進んだプロジェクト活動を支えてきた野崎専門家の活動に対する感謝が述べられ、また、野崎専門家からもC/Pへの感謝と、PJ成功への期待を返礼の言葉として述べました。

第4回 CBID アジア大洋州会議のプレイベント実施



冒頭で紹介したCBIDに合わせ、ウランバートル市における障害者社会参加促進プロジェクト（DPUB）がモンゴルにおける障害者の取り組みとJICAの協力について共有するプレイベントを行いました。イベントにはモンゴル側行政官、障害当事者、日本側参加者等、合計200名が参加しました。JICAがこれまでモンゴルで行ってきた障害に関する取り組みを俯瞰的に紹介する貴重な機会となりました。

「国税庁徴税機能強化及び国際課税取組支援プロジェクトフェーズII」の第5回JCC開催



6月27日に、第5回JCCが開催され、プロジェクトの進捗状況の報告とあわせ、広報活動、職員研修、国際課税ケーススタディー集作成等の今後の活動計画が議論されました。また、本プロジェクトの助言をもとに、これまで長年に渡り未解決であった滞納整理業務の改善による財政収入向上や、国税庁の権限強化、納税者保護、納税猶予に関する制度等の内容を含む改正税法が2019年3月に国会決議され、2020年1月に施行される予定です。改正税法の円滑な施行支援も今後の重要な活動として確認されました。

断熱塗料に関する案件化調査（中小企業海外展開支援事業）が開始しました



中小企業海外展開支援事業「断熱塗料の活用による暖房需要及び大気汚染の軽減に関する案件化調査」の第一回現地調査が実施されました。ウランバートル市において深刻化している大気汚染問題に対して、福島県いわき市の株式会社清水の断熱塗料のもたらす保温効果・省エネ効果を確認し、石炭消費量の削減効果、大気汚染緩和効果を調査する予定です。2020年4月までに残り3回の現地調査を実施し、提案製品の導入可能性を探ると共に、モンゴル国内におけるビジネス展開計画の策定を行う予定です。

●●警察庁と協力して交通安全啓発ソング「HAPPY АaB」をリリース！



モンゴルの人口は約320万人ですが交通事故死亡者数は年間500-600人と非常に多い状況です。人口10万人当たり約16-20人が毎年亡くなっており、1970年の日本の交通戦争のピーク時以上の割合です。JICAと交通警察庁は、交通事故の加害者の約60%を占める18-34歳の男性層に人気のアーティストGEEとNAKIと手を組み、交通安全意識の高い父親を主役にした楽曲を製作しました。YOUTUBEリンクはこちらです。是非ご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=qFeT9JqQyhk>

その他の事業の動き等

- 7月16日：野崎保長期専門家（一次及び二次レベル医療従事者のための卒後研修強化PJ）離任
- 7月27日：高村光男長期専門家（新ウランバートル国際空港人材育成及び運営・維持管理能力向上PJ）離任

ボランティア事業の動き

ボランティア活動紹介 (バドミントン隊員の活動)



6月下旬にUBで開催されたバドミントンの国際大会（モンゴル・インターナショナル・チャレンジ）にて、モンゴル・バドミントン協会に派遣中の永井愛加隊員が、主審として活躍。同隊員は、モンゴルにおけるバドミントン技術の強化、指導者育成、競技の普及のための活動に取り組んでいます。今回の大会は2020年の東京オリンピックが近いことから、22カ国のトップクラスの選手が参加し、モンゴルの人々が世界レベルの試合を見る機会となりました。なお、男子シングルでは、日本の高校生選手（奈良岡功大氏）が優勝しました。

その他のボランティア情報

・7月23日 JOCV 2019-1 次隊 12名着任：大澤 佑子（小学校教育／ダルハン・オール県オユニイレードゥイ統合学校）、志賀 恵（障害児・者支援／ウランバートル市障害児親の会）、田中 玖美（障害児・者支援／ダルハン・オール県エネレル統合学校）、中川 絵梨子（小学校教育／ドンドゴビ県マンダル学校）、松本 由衣（体育／オルホン県教育文化芸術局）、矢貫 柚衣（体育／アルハンガイ県スポーツ学校）、依田 沙央理（体育／ブルガン県エルデミンウルゴウー統合学校）、渡邊 彩（障害児・者支援／ダルハン・オール県第7幼稚園）、久保田 凌（理学療法士／ウランバートル市ウヌ・エンフ神経リハビリ病院）、山下 義明（小学校教育／オルホン県第15学校）、綾 里奈（体育／トゥブ県第5学校）、石山 沙希（小学校教育／ドルノド県第8学校）



研修・帰国研修員同窓会

帰国研修員同窓会 新役員の紹介



1100名を超えるモンゴル帰国研修員同窓会は会長、事務局長を含む9名の役員及び3名の監査員によって運営されています。今年3月に行われた役員・監査員選挙では、役員4名及び監査員1名が新しく選定されました。具体的には、ジャルガルサイハン内閣官房職員、オトゴンバイラル Bizcon Audit 社長、アマルトゥブシン・アマガラン産科病院副院長、ムンフデルゲル Candy World 社長が役員、ツォドル・エネルギー調整委員会内部監査局長が監査員としてこれから3年間、旧メンバーと協力して活動をしていくことになりました。同窓会の更なる発展のために JICA モンゴル事務所としても引き続きサポートしていきます。

事務所ナショナルスタッフが日本語で執筆！

コラム ～モンゴルの文化・生活事情紹介～ 「モンゴルの働くママたち」

モンゴルでは、お父さんとお母さんが共働きする家庭がほとんどのため、子育てに関してお母さんだけではなく、お父さんも協力的に手伝ってくれます。1歳までの子供を持つ働くママの勤務時間も減少しており、職場環境も身体的負担を考慮するべき旨が法律上定められています。保育園など子供を預ける施設の営業時間もお母さんの勤務時間に合わせて朝8時から夕方6時までになっています。子供を4人以上産んだ女性にはモンゴル政府から勲章が贈呈されます。我がモンゴル事務所にもこの勲章を持つ女性の現地スタッフがいます。（オーガナ所員）



独立行政法人 国際協力機構 モンゴル事務所

Bodi Tower 7th Floor, Sukhbaatar Square 3, Ulaanbaatar, Mongolia

Tel:+976-325939, 311329/Fax:+976-310845/E-mail: mg_oso_rep@jica.go.jp

Web: www.jica.go.jp/mongolia/index.html/FB: [JICA Mongolia](https://www.facebook.com/JICA-Mongolia)